

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

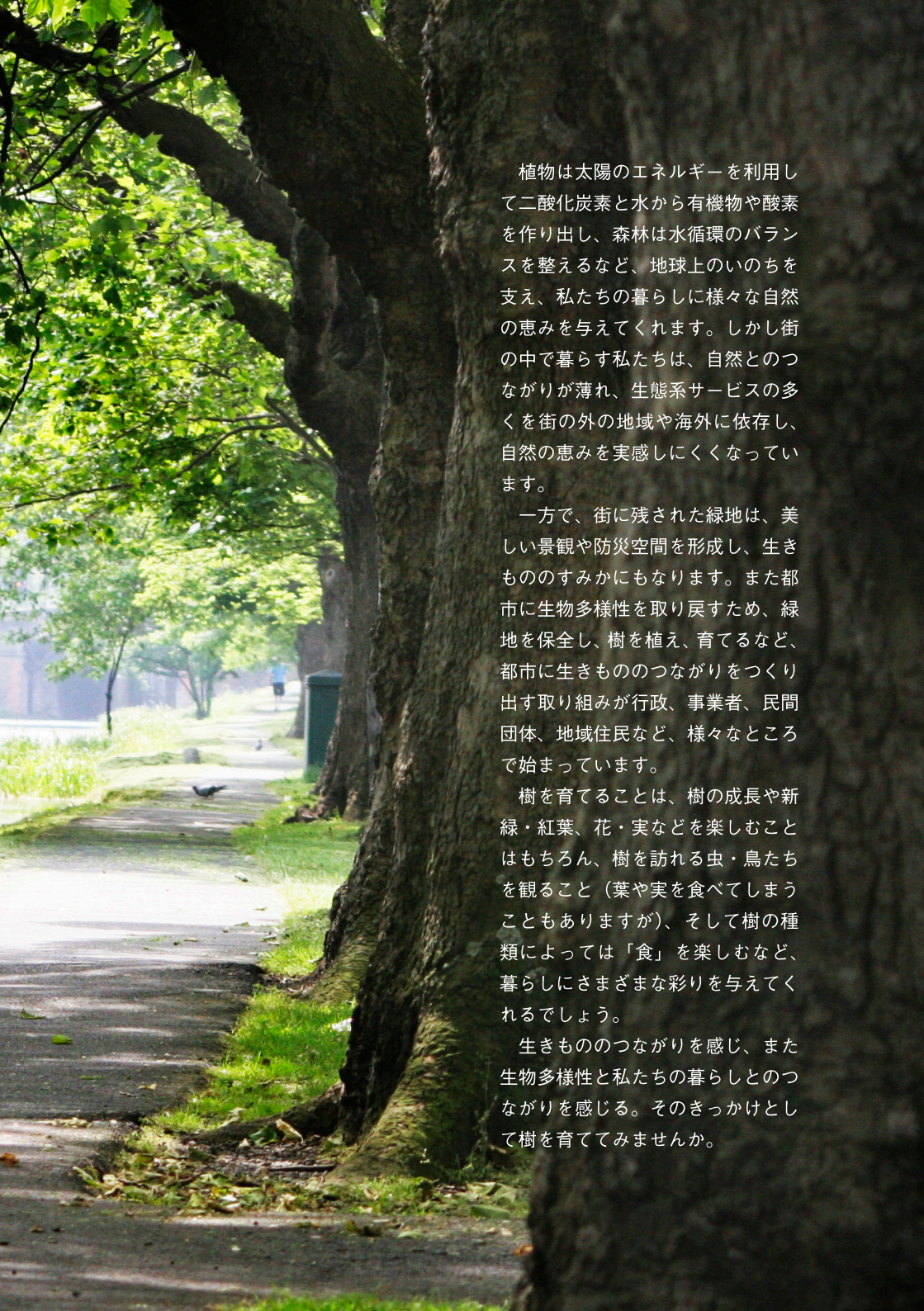
樹を
育てる。



ベランダや
庭から始める
生物多様性。
グリーンウェイブ

VOL
4

WINTER
2013



植物は太陽のエネルギーを利用して二酸化炭素と水から有機物や酸素を作り出し、森林は水循環のバランスを整えるなど、地球上のいのちを支え、私たちの暮らしに様々な自然の恵みを与えてくれます。しかし街の中で暮らす私たちは、自然とのつながりが薄れ、生態系サービスの多くを街の外の地域や海外に依存し、自然の恵みを実感しにくくなっています。

一方で、街に残された緑地は、美しい景観や防災空間を形成し、生きもののすみかにもなります。また都市に生物多様性を取り戻すため、緑地を保全し、樹を植え、育てるなど、都市に生きもののつながりをつくり出す取り組みが行政、事業者、民間団体、地域住民など、様々なところで始まっています。

樹を育てることは、樹の成長や新緑・紅葉、花・実などを楽しむことはもちろん、樹を訪れる虫・鳥たちを観ること（葉や実を食べてしまうこともあります）、そして樹の種類によっては「食」を楽しむなど、暮らしにさまざまな彩りを与えてくれるでしょう。

生きもののつながりを感じ、また生物多様性と私たちの暮らしとのつながりを感じる。そのきっかけとして樹を育ててみませんか。



1本の樹から始めてみよう、
街に生物多様性。

WHEN?

いつ

3月中旬から4月が
ベストシーズン。

樹の根が動き出す春前に植えます。植物が活動をスタートしている冬から暖かくなりはじめた3月中旬から4月中旬頃がベストシーズンです。雪の降るエリアはこれより1ヶ月ほど遅い頃がよいでしょう。

WHERE?

どこでも

ベランダ、庭など
どこでも。

まずは気軽に小さな鉢などから始めてみましょう。小鉢であれば、ベランダや庭先などでも育てることが可能です。庭に地植える場合は、地域や庭の条件によっ

WHAT?

なにを

それぞれの地域や気候にあった
樹を選びましょう。

南北に長い日本ではそれぞれの地域によって気候や生きものもさまざまです。その土地にあった樹や苗を選びましょう。苗は地元で販売しているものを使うことをおすすめします。いくつか初心者が育てやすい樹を紹介します。

TRY TO GREEN WAVE.
グリーンウェイブに
参加してみよう。

木を植えることなど、木とのふれあいをきっかけとして生物多様性について考えるための地球規模のキャンペーンです。2008年から、国連が定める「国際生物多様性の日」5月22日の朝10時に植樹などを行うことで、地球上の東から西へと広がっていく様子を、緑の波（グリーンウェイブ）と呼びます。

www.greenwave.go.jp

て選ぶ植物のバリエーションも広がります。



GREEN WAVE
CHRONICLE
2013



3月1日から6月15日が実施期間です。学校のクラスや職場の仲間、家族と一緒に参加してみましょう。

育樹を てる。



ミカン科サンシヨウ属 落葉低木

【サンシヨウ】

日本各地に分布（沖縄を除く）

比較的育てやすいサンシヨウはアゲハ蝶の幼虫が好むことから、アゲハ蝶が産卵にやってくる。若葉（木の芽）は食材として楽しめるので、1本あるだけで食生活が豊かになります。若葉が出てきたときに摘んで冷凍保存を。

クスノキ科 常緑高木

【ゲッケイジュ】

外国産（暖かい地域向き）

丈夫な上に生育が旺盛で虫もつきにくい。地中海地域が原産の樹ですが、日本でも広く親しまれています。葉を乾燥させたものはロリエとして、シチューなどの香りつけのハーブとなります。葉は1年を通じて収穫できます。

クマツツラ科 落葉低木

【ムラサキシキブ】

日本各地に分布（沖縄を除く）

日本を中心にアジアに分布する植物。秋につける美しい実から名付けられたムラサキシキブは6月にも花が楽しめます。虫がつきにくいので育てるのが容易です。紫のほか、白い実のシロシキブや小型のコムラサキシキブなども。

ほかに

ヤマブキ、ジンチヨウゲ、レンギョウ、ドウダンツツジ、ユキヤナギ、キンモクセイ、オリーブ、ブルーベリー、キウイなど。

HOW 1

どのようについに

植えるだけでなく、
育てていくことが大切です。

園芸種は人為的にさまざまな品種を交配したもので、海外起源のものも多く、中には地域の生態系にとって侵略的で悪影響を与える恐れのある種もあります。どう
いう種類なのか、どんな増え方をするのかなど、植える前に特性を調べましょう。自然の中にむやみに移植したりせずに、植えたら最後まで「きちんと管理すること」はとても大切です。具体的な育て方や管理の方法については近くの園芸店に相談してみるのも手です。

MORE

さらさら

もっと本格的に
知りたくなったら。

さらに樹と生きものについて知りたくなったら、

NPO法人生態教育センター

の「お庭の生きもの調査」
のウェブサイトも参考に。

www.wildlife.ne.jp/kitmono

AND THEN

そして

樹から始める
生物多様性の楽しみ。

樹と触れあうことを通じて、さまざまな生物多様性を
感じるができます。樹の成長を感じることから、
花が咲くものは花を、また紅葉や実、果実なども楽し
めます。葉や実が食用として利用できるものも多く、
また花にチョウなどの昆虫、実には鳥など、生きもの
がやってきました。

GREEN WAVE
CHRONICLE
2012



2012年度のグリーンウェイブ
では植樹本数が約60,000本、
参加団体465団体、参加者数
は約18,000人でした。



福井彌一郎

(積水樹脂・代表取締役社長)



ふくいやいちょう 大阪生まれ。2003年より現職に。年間の3分の2は国内外の出張という日々。趣味はゴルフ。

企業と生物多様性 第1回

生物も人間も大切なのは多様性です。

Q 企業として、生物多様性に関する取り組みをいろいろと実施されています。

A 2010年を社会貢献元年とし、国連生物多様性の10年日本委員会に協賛させていただいています。11年度は琵琶湖の水源を守る森林作りのための活動を、12年度には石川県で森林保全活動を展開しました。東日本大震災の時はプロジェクトチームを作って、社会貢献活動に取り組みました。

Q 製品でも、環境に配慮したものが多くありますね。

A 廃材を再利用した人工木製品や太陽電池製品、リサイクルの提案など、製品開発から使用、廃棄までのさまざま

な段階で環境に配慮しています。利益だけを追求していくビジネスはもう成り立ちません。生物多様性の保全を考えることは、企業に課せられた使命だと考えています。

Q 生物多様性はどうビジネスに関わっていますか？

A ものごとの原点には生物や自然があります。生物がなぜその形で生き延びているのか、森林がなぜそこにあるのかを考えると、ものの原点(自然の理)にたどり着きますし、製品開発にもつながられます。当社では人材育成のための塾を開いていて、私も手作りの教科書で講義を担当しています。そこで話すのが人に必要な「3つの目」のことで

鳥の目、虫の目、魚の目。鳥の目で全体を見渡し、虫の目で部分を見る。魚の目で流れを見ます。これら3つの目を持つことで時代を読み、その風を読めるのです。これも自然から得られるヒントのひとつだと思います。

Q 社訓はありますか？

A 風通しがいいことです。上から下まで見渡せなければ会社の総合力を発揮できないのではないかと。そのために会社をハイブリット化したいと考えています。いろんな人やジャンルの人がいることで成長していくのだと。変化に富み、何にでも対応できる、生きものだけでなく、人間においても多様性は大事ですね。

生物多様性のことを知ってもらうための広報組織です。60近くの仲間が参加しています。応援団はまだまだ募集中！ <http://undb.jp/public/index.html> へ。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

くらいふ

(岡山県倉敷市)

自然や生きものが大好きな「くらいふ」。いろいろなイベントに参加して環境を守る大切さを伝えるなど、環境を良くするためにがんばります



瀬戸内海を臨む岡山県南部の倉敷市では、住民のくらしと自然の未来のための「生物多様性地域戦略」を作成中です。市内では「いきものまちづくり懇談会」が開催されました。自治体と市民が一体となって、倉敷の未来を考えています。

エコッパ

(福岡県福岡市)

環境を守るため、地球を見渡す葉っぱの「エコッパ」は福岡市の環境シンボルキャラクター。手は福岡のFの形をしています。



福岡市は「百年後も豊かな自然環境と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市『ふくおか』」を目標とする「生物多様性ふくおか戦略」を作成し、生物多様性の保全と持続的な利用を社会へ浸透させるために、多様な主体との連携・協力を図っています。

お知らせ

地域でのセミナーに 参加してみませんか？



2013年2月24日、静岡県浜松市で生物多様性地域セミナーが開催されます。浜松市は太平洋から南アルプスまで、豊かな自然環境を保有し「生物多様性はままつ戦略(仮称)」を作成しています。この生物多様性地域セミナーは、私たちの暮らしを取り巻く生きものや自然について考えるきっかけとなってくれるはずです。みなさんのお越しをお待ちしています。

詳しい情報は、<http://undb.jp> をご覧ください。

報告

生物多様性 全国ミーティングが開催



第2回 生物多様性全国ミーティングが2012年11月3日に横浜市で開催され、約200名が参加するイベントとなりました。林横浜市長からは地域の個性を活かした取り組みや「ヨコハマbプラン(生物多様性横浜行動計画)」が紹介されたほか、UNDB-J 認定連携事業の発表や「生物多様性の主流化のために私たちができること」をテーマにしたワークショップも開催され、参加者同士、活発な意見交換が行われました。

横浜市水環境キャラクター「だいちゃん」(右端)や生物多様性リーダーの真珠まりごさん(右から3番目)も参加。



編集・発行

国連生物多様性の10年日本委員会事務局(環境省自然環境計画課生物多様性施策推進室)

ホームページ URL : <http://undb.jp/> メールアドレス : shizen-suishin@env.go.jp